



抹茶猫気が弱い。

アオ君、一番の兄ちゃんなもんで、ちょっと威張ってます。



抹茶、兄ちゃんをさしおいてよく寝るヤツだな。
ヲイ！そこは兄ちゃんの世界だ！

すんまへん...



大体オマエは、弟のくせに、図体がでかすぎる。
(そんなご無体な...)

ウン、そこ、兄ちゃんの後ろならいいんだ、ウン。
足つきなんかもな、真似したっていいんだぞ、ウン。



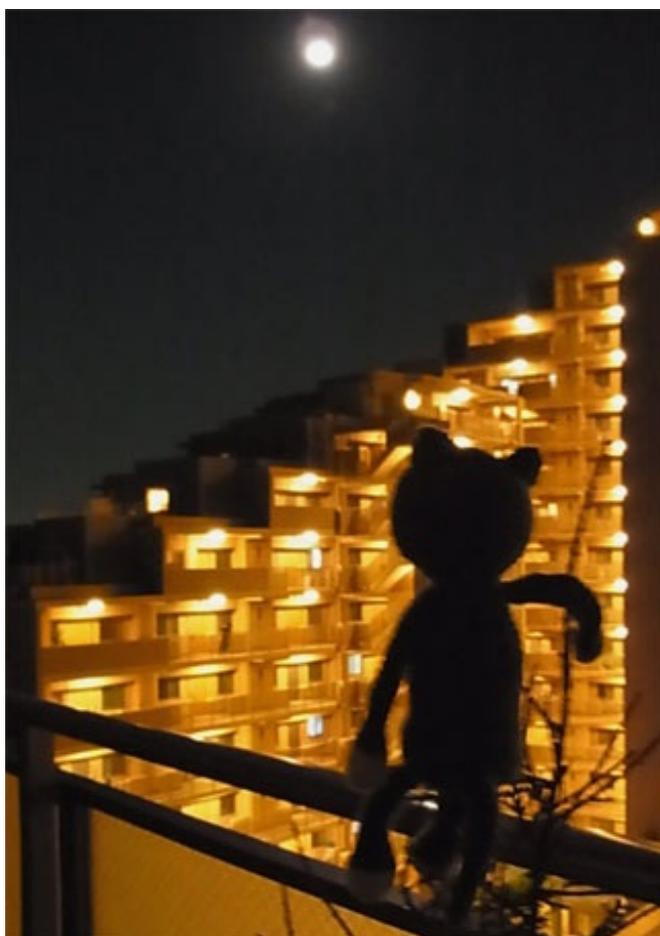
何だかんだ、仲良しです。



アオ君のひそかな夜

アオ君はハードボイルド。

弟たちが平和に熟睡の夜中、ふとひとり寝床を抜け出します。



月がこんなにきれいな夜は、ふとひとりになりたくなるのさ。



フラッシュ焚くなよ...オレだってバレるじゃねえか...

アオ君は、結構、気に入る

普段家の中で日々日常を暮らしてると言えないことも、外に出て違う風景の中に包まれたときは、ふと言えてしまったりします。

公園でキイロ君が、ご機嫌で赤い葉っぱの木に登ってたら、



いつの間にか、隣にアオ君が。



「ヲヨヨ～、兄ちゃん、いつの間に。」

「イヤその、...あのなあ。」



「オレさ、みんなの兄ちゃんだからさ、結構気張ってやってるつもりなんだけどさ。」

「ウン。」

「こないだな、ミイが、アオ威張りんぼよね、一番チビのくせに、なんて言ってたんだよ。オレ威張りんぼ、かな...」

「ミイはいつもそんなことばかり言ってるんだよう、兄ちゃんは頼りになるオレら皆の兄ちゃんじゃないか。」

「...そうかな。」

「そうだよウ〜。」



じいん。

「ありがとな。」



アオ君、幸せを見つける。

11月のある晴れた朝、アオ君はすっきりと立ち上がる。
固いその意志と決意。



「...オレは今日、オレの手で幸せをつかむ！」

どこにある、我が幸せの青い鳥。
求めよ、さらば与えられん。



いたっ、こんなところに、オレの幸せちゃん！



どうか逃げないで、オレの幸せ。



「アっ！」
ずるり、足が滑る。

イヤここで負けてなるものか。不屈の精神。



やっぱり待っていてくれた。
もう離さない、小さなオレの幸せちゃん。

あみねこ/長兄アオくんのいろいろ

<http://p.booklog.jp/book/45329>

著者 : yamamomon

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/yamamomon/profile>

※あみねこの著作権は、ねこやまさんにあります。

この写真絵本は、ねこやまさんの許可を得てyamamomonが制作、発表しているものです。

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/45329>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/45329>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.